

## 財政政策：講義の予定と内容

2011年冬学期火曜2限：井堀利宏

1. 財政政策の理論と現実に関して、マクロ、ミクロ経済学の理論的な枠組みを用いて、解説する。
2. 講義の水準は学部レベルよりはやや高いが、標準的な大学院レベルよりはやさしい。テクニカルな厳密性よりも、直感的な説明や現実的な政策含意を重視する。
3. 成績判定について
  - ① (試験 70%+レポート 15%) 成績判定は期末試験(1月24日)を中心にするが、1月17日にレポートを提出し、その内容も考慮する。
  - ② (プレゼン 10%) 各講義の後半にレポートの報告を行い、1人5分間で自分のレポートについてプレゼンをする。
  - ③ (感想文 5%) 財務省富山主計局調査課長(予定)のレクチャー(10月18日)に出席して、その感想を400字程度にまとめて提出する。

### 講義予定

#### 10月 (4回)

- 4日 全体のイントロ+不況期の財政運営
- 11日 中長期の財政政策
- 18日 財務省主計局富山調査課長の講義
- 25日 財政再建

#### 11月 (4回)

- 1日 社会保障(公的年金)
- 8日 公共事業
- 15日 休講
- 22日 その他歳出(防衛、ODA、農水、教育、環境、医療など)
- 29日 官と民の役割分担(公共財、政府の規模、民営化など)

#### 12月 (2回)

- 6日 休講
- 13日 所得税
- 20日 消費税

1月 (3回)

- 10日 法人税、資産課税
- 17日 地方分権、地方財政
- 24日 試験

**感想文について**

10月18日：財務省富山主計局調査課長（予定）のレクチャーに出席し、その感想を400字程度にまとめて提出する。

提出期日：レクチャーの1週間後10月25日の講義時間終了時

なお、メールでの提出は受け付けないので注意すること。

**レポートについて**

課題：各講義と関連する分野でプレゼンを行った内容について、まとめる

分量：2500字程度（A4で2,3枚）

ワープロで作成する

提出期日：1月17日の講義終了時

なお、メールでの提出は受け付けないので注意すること。

**プレゼンについて**

プレゼン：1人5分間で自分のレポート課題についてプレゼンをする。一人1回のみ

プレゼンのテーマ：各講義のトピックについて、わが国における現状、課題と望ましい改革のあり方を議論する

（例：「財政再建」の場合：わが国における財政再建の現状とその課題を整理して望ましい改革のあり方を議論する。）

報告期間：10月25日から1月17日までの9回の講義で、各講義時間の後半部分（毎回大体3,4名程度＝合計30分間：午前11時30分から12時程度）をプレゼン（質疑応答も含む）の時間に充てる。報告時間は1人当たり5分＋若干の質疑応答を想定

聴講する人数が少なければ、プレゼンの（1人当たりの）報告時間を多くすることも可能

ただし、1つのトピックに集中しすぎないように、上限は1講義トピックあたり5人までとする（受講する学生数に応じて変更有り）

プレゼンの割り振り：10月8日までにプレゼンの希望日（および希望のトピック）[をメールで ihori@e.u-tokyo.ac.jp](mailto:ihori@e.u-tokyo.ac.jp) へてに連絡する。なお、その際に「財政政策のプレゼン希望」というメールの題目を必ずつける（そうでないと、開封しないで削除する可能性もある）。

第1希望、第2希望、第3希望まで明記すること。1つのトピックに希望が集中すれば、こちらで適宜割り振る。その結果は、10月15日までにメールで知らせる。

#### 参考書

1. 『公共部門の業績評価—官と民の役割分担を考える』井堀利宏編 東京大学出版会 2005年
2. 『公共経済学入門』井堀利宏 日本経済新聞社 2005年
3. 『小さな政府の落とし穴』井堀利宏 日本経済新聞社 2007年
4. *Public Finance and Public Policy: Responsibilities and Limitations of Government* by A. Hillman, Cambridge UP, 2003 日本語訳あり
5. *Why Government Succeeds and Why It Fails* by A. Glazer and L. S. Rothenberg Harvard UP, 2001. 日本語訳あり
6. その他の参考文献は講義の際に適宜紹介する。